

大牟田市立銀水小学校

1 本校ESDの特徴

本校では、地域の教育力を効果的に活用しながら、学習活動として学年の実態に応じた単元構成の工夫をしながら、環境・エネルギー、地域遺産・世界遺産、人権・福祉の学習などを重視した取組を行っている。特に、低学年においては、児童の興味関心を大切に、楽しく遊びながら、身近な自然環境に関わっていくようにしている。3年生以降から人権・福祉教育として、「人」とのつながりを通して、共生社会の生き方について考えるようにしている。また、5年生においては、地域にある福祉施設で暮らすお年寄りの方々と交流を通して、その関わり方について考えを持つとともに、自分の生活と関連付けて考えながら、学習したことを全校児童に発信していくようにしている。

このように、本プロジェクトでは、地域と直接関わる体験を重視し、その特色を活かしながら地域に対する豊かな感性を養うとともに、郷土の文化や生活に親しみ、郷土を大切にしようとする態度を育てるようにしている。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

【環境・エネルギー】

1年生「ひとつぶのたねから」・2年生「ぐんぐんのびろ」	
(生活科 4月～12月 1年10時間、2年生 14時間)	
3年生「生きものはかせになろう」	(総合的な学習の時間 33時間)
4年生「めざせエコロジー博士」	(総合的な学習の時間 21時間)

【地域・世界遺産】

2年生「まちたんけん」	(生活科 5月・11月・1月・2月 42時間)
4年生「守っていこう郷土の宝」	(総合的な学習の時間 9月～12月 24時間)
5年生「自国文化に触れよう・銀水太鼓」	(総合的な学習の時間 25時間)
6年生「守っていこう郷土の宝・世界遺産」	(総合的な学習の時間 11月～12月 20時間)

【人権・福祉】

1・2年生「みんなでなかよし」	(生活科 9月～3月 1年19時間、2年16時間)
3年生「心を伝えて」	(総合的な学習の時間 9月～3月 35時間)
5年生「共に生きよう銀水」	(総合的な学習の時間 4月～10月 36時間)
6年生「ふみだそう 夢への第1歩」	(総合的な学習の時間 4月～7月 10時間)

3 特徴的な活動事例

<6年生 総合的な学習の時間 単元名「守っていこう、郷土の宝・世界遺産」>

(1) 目標

- 大牟田近代化世界遺産の宝を調べ、表現し、交流する活動を通して、郷土の価値ある歴史・文化遺産について理解を深め、郷土を愛する心情と守っていく実践力を持つことができるようにする。
- 複数の資料から情報を集め、構成し、伝えたいことを効果的に伝えるようにする。また交流を通して、よりよく表現することができるようにする。

(2) 実践の展開

- ①世界遺産について知り、課題を設定し、追究する計画を立てる。(3時間)
 - 世界遺産の意味と役割について知り、単元の見通しをもつ。
 - 修学旅行で見学した長崎の世界遺産(軍艦島)を想起し、大牟田市の世界遺産との関連や違いについて話し合う。

②大牟田市の世界遺産について追究する計画を立て、調べ活動を行う。(8時間)

- 大牟田市の世界遺産の役割について調べる。
- 團琢磨の業績について調べる。
- 近代化遺産見学で知りたいことを明確にし、見学の計画を立てる。
- 近代化遺産見学を行う。
- 三池港、長崎税関三池支署、宮原坑について調べたことを交流し、それぞれの施設の関連や価値について話し合う。



③大牟田市の世界遺産を守り伝えるための方法を話し合い、実践する。(8時間)

- 大牟田市の世界遺産に観光客を呼ぶ方法を話し合う。
- パンフレットを置く場所やニーズに合った内容を話し合う。
- 読み手を想定し、表現や配置を工夫した観光パンフレットを作る。
- 新大牟田駅にパンフレットを設置してもらい、効果を確認する。



④活動を通じた、郷土に対する思いや考えの深まりを振り返り、自己の生き方を考える。(1時間)

- 郷土の価値ある世界遺産とそれを築いた先人の努力について考えたことを表現する。
- これまでの自分の思いや考えとその深まりについて発表する。

(3) 子どもたちの様子

修学旅行で訪れた長崎の世界遺産(軍艦島)と、大牟田市の世界遺産との関連を調べたり比較したりする活動を通して、どちらも近代化を支えた価値ある遺産でありながら軍艦島と宮原坑では年間見学者数に大きな違いがあることに気づき、もっと多くの観光客に大牟田の世界遺産を知って欲しいという思いをもつことができた。

そこで、宮原坑や三池港、長崎税関三池支署のそれぞれの役割と価値を調べるとともに、未来を見据えてこれらを築き上げた先人の思いや努力について調べる活動を行った。

子どもたちは、調べたことを多くの人に知ってもらえるよう、情報の発信の仕方や内容、表現方法について意欲的に話し合うことができた。パンフレットを駅に設置してもらうことで、実践への意欲と有用感を高めることができた。

(4) 成果と課題

<成果>

- 世界遺産の比較活動からズレを意識させたことで、単元を通じた課題意識を持たせることができた。また、調べ活動を通して世界遺産の価値や先人の努力を知り、郷土の宝を守り伝えたいという思いを高めた上で、相手のニーズに合った発信の仕方や内容を追究させたことで、自主的意欲的に問題解決する姿が見られた。

<課題>

- 取り組みの成果と課題を振り返り、さらに内容を高めた実践を行うなど、活動のサイクルを増やし、持続発展的な取り組みを行う必要がある。

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・「環境・エネルギー」における3年生「生きものはかせになろう」では、身近な昆虫を飼育したり、草花を育てたりする活動から、それらの成長や変化に関して様々な環境の影響に目を向けながら興味を持たせながら実践させていくことができた。

○課題

- ・5年生「共に生きよう銀水」お年寄りとの交流計画において、久福木サン荘訪問の時期とその単元計画の見直し。